

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里小学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は、以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

| | | |
|-----|---|---|
| 国 語 | 学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題 | C |
| 算 数 | 学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題 | C |
| 理 科 | 学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な概念等を柱とした内容をバランスよく出題 | C |

☆ 全国平均正答率との比較について

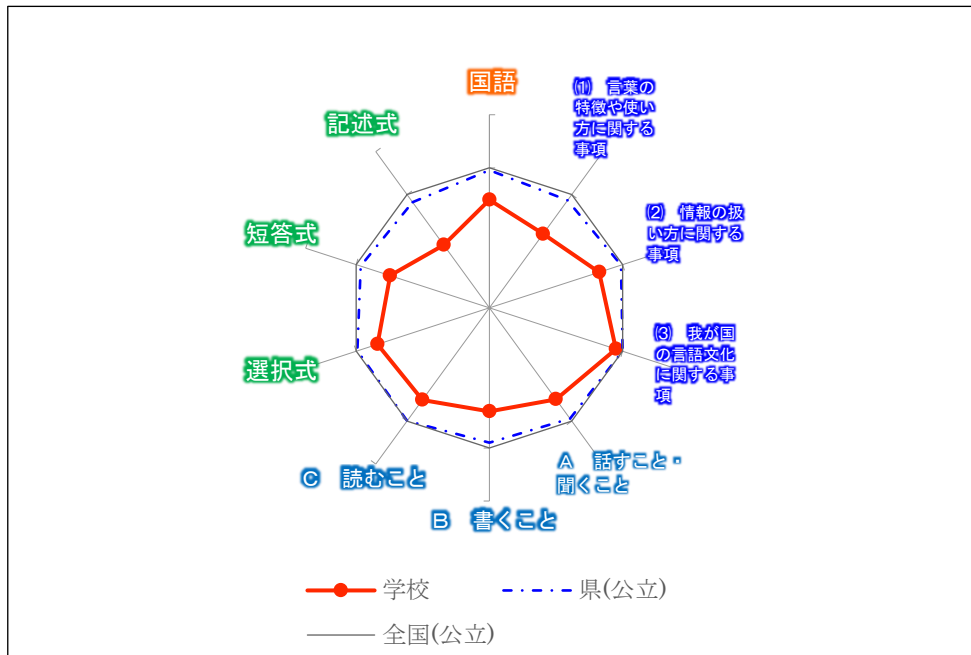
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国 語



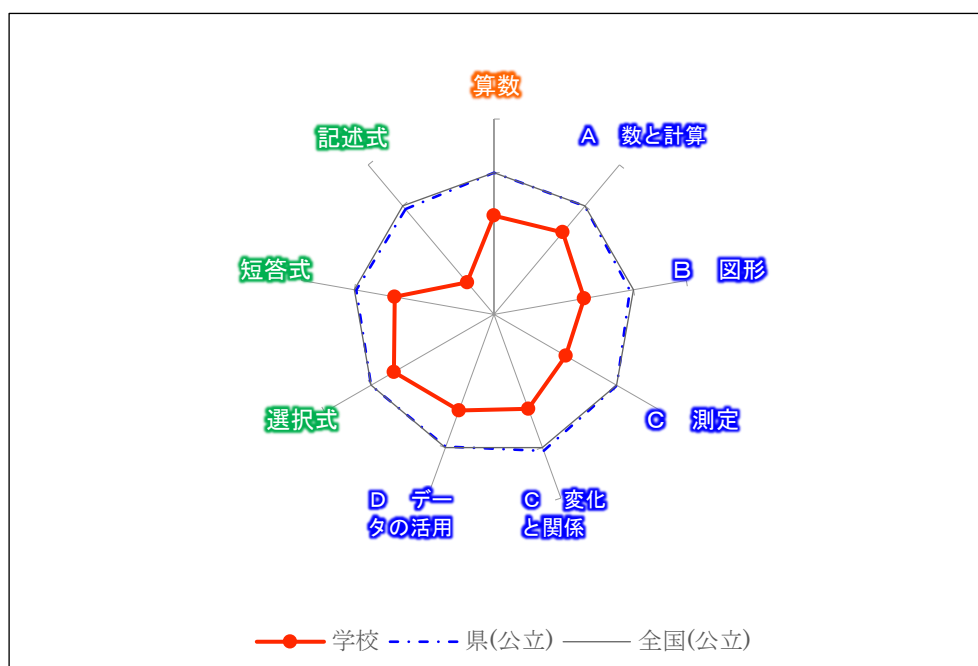
【特徴と現状】

- 全体的に、学校の得点（赤線）は全国平均（黒線）を下回っている。特に「短答式」「記述式」の領域で差が見られ、思考力・表現力を問う問題で課題がある。一方で「選択問題」については、全国平均に近い水準であり、基礎的な知識・理解はおおむね定着していると考えられる。
- 「読む」「書く」「話す・聞く」のうち、「書く・記述する力」に弱さが見られる。文章の要点をとらえる力や、自分の考えを筋道立てて表現する力が十分に発揮されていない。
- 短時間で答えられる「短答」や「選択」は慣れているものの、文章で整理して伝える経験が不足していることがうかがえる。普段の授業で、「自分の考えを書く」「根拠を示して説明する」活動を増やしていくことが大切である。
- 「根拠を明確にして説明する問題」で全国平均との差が大きい。論理的な思考をすることや考えたことを言語化する力に課題がある。

【改善方策等】

- 「記述・表現に関する力」の育成が最優先課題である。根拠をもとに自分の考えを説明する活動を、国語科だけでなく全教科で位置づけていきたい。日常的に「なぜそう思うのか」「どうすればもっとよく伝わるか」といった対話を通して、考えを整理し、言葉にする力を高める授業改善を行っていく。
- 文章の読解力も含めて、「長い文章を読み切る力」が不足している。教科書に載っている物語文や説明文の速音読を通して、速く正しく読む力を伸ばしていく。

算 数



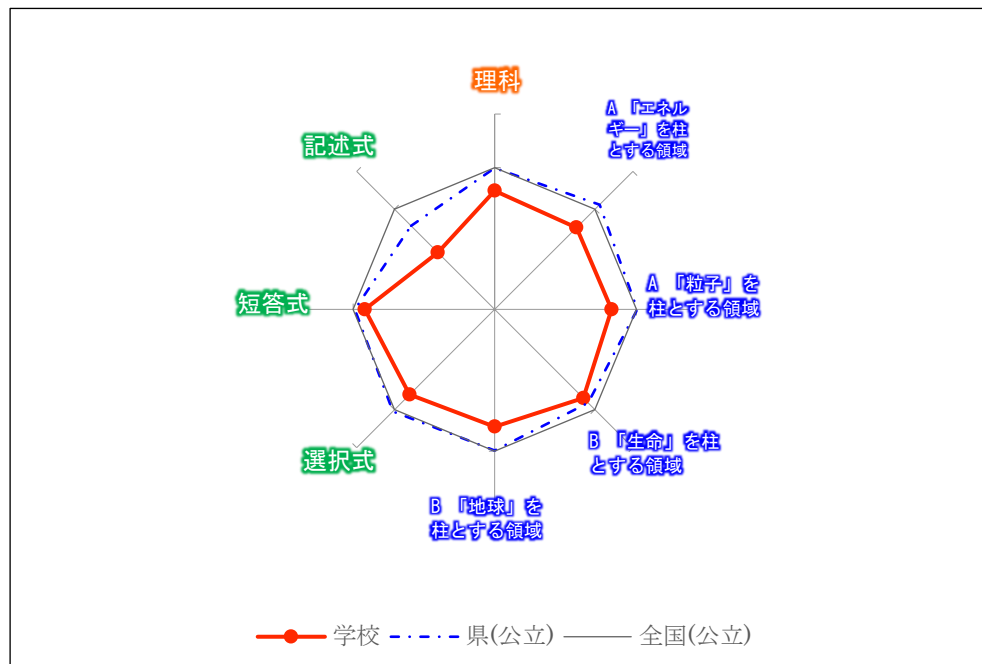
【特徴と現状】

- ・全体的に、全国平均を下回る結果となっている。特に「短答式」「記述式」の問題で全国平均との差が見られ、思考力・判断力を問う問題に課題がある。
- ・計算や図形の基本的理解はある程度正答できている。数値や図形の意味を捉えて活用して考える問題での正答率が低い。特に「資料の活用」や「変化と関係」など、複数の情報を統合して考えることに課題が見られる。
- ・【A：数と計算】では比較的正答率が高かった。計算練習や学習内容の定着を図るための適用問題を重視してきたことで、基礎的な計算技能が定着してきた。

【改善方策等】

- ・児童間での習熟度に大きな差が開いているため、「自由進度学習」を取り入れて、自分自身に応じた課題をもとに学習すること（個別最適な学び）を進めていく。また、児童同士の学び合いの機会を多く設定し、児童同士で協力していくこと（協働的な学び）で、学習に向かう前向きな姿勢も向上すると考えられる。
- ・「考える算数」「説明する算数」への転換を検討する。問題を解くだけでなく、考え方を共有し、表現し合う授業づくりをおし進める。特に、「思考を可視化する板書」を職員が研修し、児童にノートづくり、ペア対話などを通して、筋道立てて考える力の育成を重視していきたい。日常の学習で「理由を言える」「自分の考えを比べられる」児童を増やしていく。
- ・授業で「考えを説明する」「理由を述べる」などの活動を十分に積ませ、思考を言語化できるように、「なぜそうなるのか」「別の考え方はないか」といった多様な考え方を共有する場を設けていく。

理 科



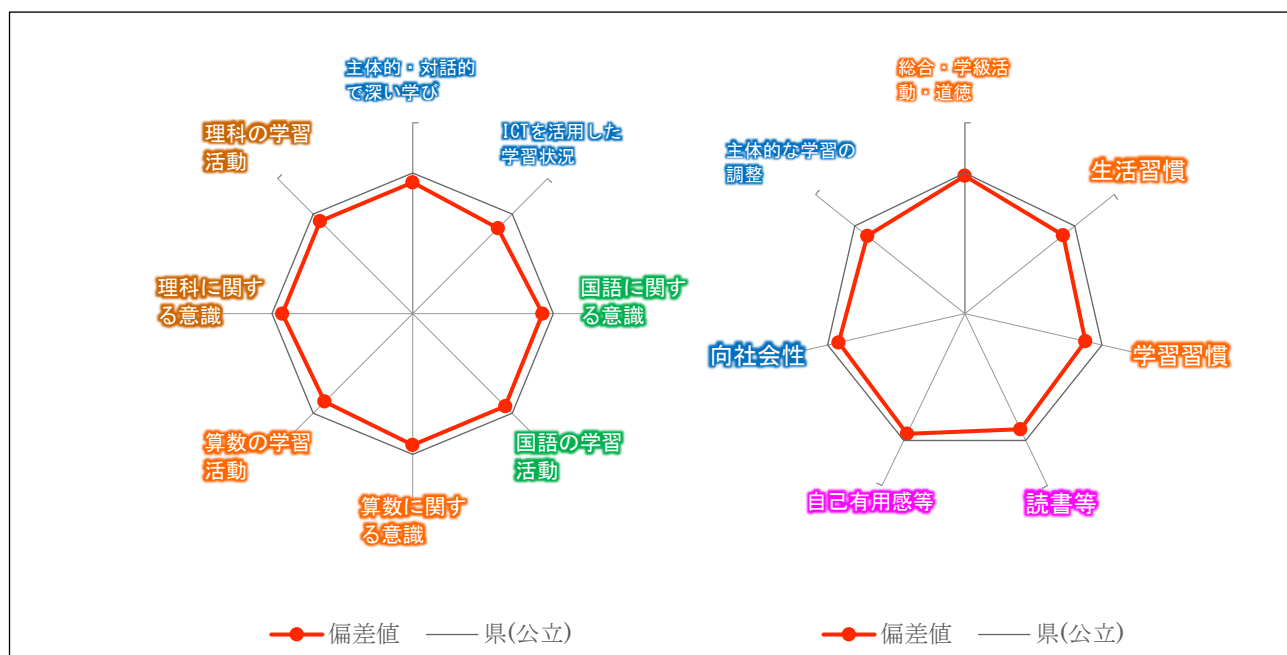
【特徴と現状】

- ・全体的に、学校の結果（赤線）は全国平均（黒線）を下回っている。特に「短答式」や「記述式」問題で差が見られ、考えを言語化したり、理由を説明したりする力に課題がある。「選択問題」は全国平均に近く、基礎知識や観察・実験の基本事項はおおむね理解していると思われる。
- ・「観察・実験から分かることを整理する力」が弱く、結果を基に考察する問題で得点が低い。事実の確認や知識の想起に強く、「思考・判断」や「表現」に課題がある。県平均とも同程度の傾向があり、思考過程を表現する学習活動の定着が全体的な課題と考えられる。

【改善方策等】

- ・授業の中で「結果から考える」「理由を説明する」活動が十分でないことが考えられる。観察・実験後のまとめが事実の記録で終わらず、考察や結論まで深める指導を行っていく。児童が「なぜそうなるのか」を自分の言葉で説明でき、科学的な見方・考え方を働かせる経験を積みさせていく。
- ・「科学的に考える力」と「自分の考えを表現する力」の育成が課題である。観察や実験の結果をもとに「予想→確認→考察」までを一貫して行う授業づくりを行っていく。友達との話し合いや比較などを通して、考えの根拠を説明し合う理科的対話の場を増やすことが必要である。「なぜそうなるのか」「どのようなことがわかったのか」を書かせる習慣づくりを、今後の重点とする。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- ・全体的に、県平均・全国平均とほぼ同程度で大きな差は見られない。「主体的・対話的で深い学び」「ICTの活用」など、学びの質に関する項目が全国並みである。一方で、「復習に関する取組」「家庭学習」「読書」など、日常の学習習慣や自主的な学びにやや県平均とのが見られる。
- ・学校生活全般への意欲はおおむね高く、授業に前向きに取り組もうとする姿勢が育っている。しかし、「自分で課題を見つけて学ぶ」「家庭で学習に取り組む」といった自主性に関する項目がやや低めである。「ICTを活用した学習」や「友達と話し合う学習」など、協働的な学びへの意識をもっていることがわかる。
- ・授業での活動が活発で、児童が「学校の中で学ぶこと」には意欲的に取り組んでいる。ただし、家庭学習とのつながりが弱く、学校外での学習習慣が形成されていない。ICTの活用や話し合い活動の増加により、授業時間内での学びの意識は高まっているが、学びを自分ごとにする段階には至っておらず主体的に学ぼうとする姿勢については今一つの結果であった。

【学習に関する意識・取組（左図）】

- ・「国語の学習活動」「算数の学習活動」など、教科への関心は比較的高い。
- ・「復習を目的とする活動」「理科に関する活動」が低めで、学習内容の定着や振り返りの習慣が不足。
- ・「主体的・対話的で深い学びの実感」や「ICT活用」は平均的である。

【生活習慣・学習習慣（右図）】

- ・「読書」「家庭学習の習慣」がやや低く、家庭での学びの時間・質ともに改善の余地がある。
- ・「自己有用感（自分にはよいところがある）」は全国並みで、自己肯定感は一定程度育っている。
- ・「生活習慣」「学習習慣」は概ね安定しており、学校生活リズムは整っている。

○全体の課題

- ・学びを学校内から家庭・日常生活へと広げる取組が課題である。家庭学習の目的意識を高め、「今日学んだことを自分で確かめる」「自分で調べてみる」などの習慣化を図る必要がある。授業での「対話・振り返り」を家庭学習につなげる工夫や、教師の声かけ・学級通信での啓発も有効となる。読書活動や自主学習ノートなどを通じて、自分から学ぶ楽しさを実感させる取組を継続していく。

3 まとめ（成果○と課題●）

- 全体的に平均値を下回っているが、基礎基本に関しては、平均値に近い数値となっている。本校で取り組んでいる『とみの国検定』（百マス計算、四則計算、視写、暗唱）や、授業の中で演習を積極的に取り入れることを継続して実施してきた成果とも考えられる。
- 集中して学習に取り組める学習規律と学習環境の定着のために、一昨年度から取り組んでいる「富里小学校あたりまえ週間」が軌道に乗ってきていることが考えられる。学習規律と学習環境は学力向上の土台であると考えられるため、今後も継続して実施していく。
- どの教科も全体的に課題が多いが、特に「思考・判断・表現」について課題が見られる。基礎基本の徹底のために、教師から与えられる課題が多くなっていることが要因の一つだと考えられる。普段の授業や学級活動において、児童に考えさせる場面を増やしていく必要がある。
- 家庭学習は与えられた課題をこなすものではなく、より自主的に、学んだことを実生活に結び付けていけるようなものに変えていきたい。基礎基本の宿題だけでなく、自学で探究していく機会を設けていく。